

松岡洋右 まつぎら ひろむね 外交官、政治家。明治十二年二月四日山口縣室積生れ、昭和二十一年六月二十七日歿（八八〇—一九四六）。明治二十五年アメリカに渡りオレゴン州立法科大学卒。昭和七年國際聯盟總會の首席全權として出席、翌年リットン報告書の採擇に抗議、聯盟脱退のに役者となりた。十年滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）總裁。十五年外相となり、大東亞共榮圈の確立を提唱し、日獨伊三國同盟を締結。翌年日ソ中立條約を調印。その後對ソ・對米關係強硬を主張したが内閣總辭職により外相を辭任。A級戦犯で起訴と病死。

著書に、『動く滿蒙』（昭和六年七月十七日先進社）、『東亞全局の動搖—我が國是と滿蒙の現状』（昭和六年九月二十五日先進社）、『松岡全權入演説集』（竹内實積編著、昭和八年五月二十八日大日本雄辯會講談社）、『青年よ起こ—世界變局と大和民族の使命』（上村勝彌編、昭和八年十二月二十一日日本思想研究會出版部）、『非常時に際し全國民に懇ふ』（一國一黨論・政黨解消論）（昭和九年一月四日大阪明社）、『政壇を脱退して日本國民に訴ふ』（昭和九年一月五日大阪年刊新聞社・東京白百合新聞社）、『滿鐵を語る』（昭和十一年五月五日第一出版社）、『興亞の大業』（昭和十一年五月十日第一論議社）、

『松岡外相演説集』（外交問題研究

會編、昭和十六年六月—二十七年日本

國際協會）等。

